



# 平成二十九年 施政方針

石垣市長 中山 義隆

## はじめに

昨年は、6月から石垣―香港の直行便が新たに就航するとともに、クルーズ船の寄港回数も過去最高の95回を数え、本市への観光入域客数は過去最高の約124万人に達しました。このような状況を背景として、本市においては、観光関連産業を中心に新規の開業や宿泊施設の増設等が相次ぎ、これと相まって、地元の雇用情勢は、2014年12月以降、25か月連続で有効求人倍率が1倍以上の高水準で推移しています。平成27年度決算においても市税収入は、51億3千万円を超え過去最高となりました。また、民間の調査による全国市別の「地域元気指数ランキング」においては、一昨年の全国第3位から昨年は第2位へと昇格するなど、本市の経済は成長を続けております。

他方、有効求人倍率が高水準で推移する一方で、最近では求職者数の減少がみられるところであり、特に観光・サービス分野や、保育、介護等の福祉分野などにおいては、人材不足が生じています。また、本市の総人口は、2017年1月末時点で4万9千252人となり、この一年で111人増加し、引き続き増

加基調で推移しておりますが、一部では人口減少に歯止めがかからない地域もあるなど、引き続き取り組むべき課題もあるところで

す。将来的に懸念される人口減少の流れを食い止め、本市の特性を活かした経済の活性化を目的に策定した「地域創生総合戦略」に基づき、平成28年度から地域創生に関する諸施策の本格展開を図っております。

本市内における、教員採用試験対策講座の実施や、平成29年4月からの保育士等養成課程の開設、大学と連携した観光インターンシップなど、地元で人材を育成する環境の構築を着実に進めており、具体的な成果も出てきているところです。また、平成28年度から新たに取り組んでいる移住・定住支援につきましては、本市に不足する分野の人材確保と、人口減少が進む地域におけるコミュニティの維持・存続を基本的な方向として定め、その展開を図っております。昨年、民間企業が実施した「シティブランド・ランキング・住んでみたい自治体編」においては、本市が全市町村の中で第8位に選ばれるなど、移住候補先としてのブランド力の高さが示されました。今後さらに、ターゲットを明確にした効

果的なプロモーションの実施や、地域の受入れ支援ネットワークの構築、空き家の改修と活用を支援する空き家バンクの創設等の具体的な取組を進めてまいります。また、首都圏等の都市部から本市へのアクティブシニアの移住・定住の受け皿となる「生涯活躍のまち」構想につきましては、今春策定予定の基本構想を踏まえ、本市の産業・地域の活性化のために必要とされる専門人材の誘致や、地元の観光や健康、食等における新たな産業の創出と併せて、その創設に向けた取組を進めてまいります。その他、LEDライトを活用した屋内での葉物野菜の砂栽培や、水産加工施設のモズク処理ラインの増設など、産業・雇用の創出に関する事業につきましては、平成28年度中に整備工事等を終え、今後、目標に沿って事業拡大を図っていくこととしており、引き続き地域創生の取組を力強く展開してまいります。

また、今年石垣市の市制施行70周年の大きな節目の年です。この節目の年を市民皆で慶び、心一つにして、次の10年に向けて更に羽ばたけるきっかけとするため、市制施行70周年の記念事業として全29の事業を行ってまいります。自然、伝統文化、食、風景など石垣の魅力・強みの再発見・磨き上げや、これらの内外への積極的な発信、また市民活動の充実・協働意識の向上など、今後の更なるまちづくりの発展に向け、新たな価値の創造につながる各種事業を市民各位のご協力をいただきながら実施してまいります。

新たな市役所庁舎は、行政のみならず、市

広報・発信の取組を行ってまいります。

## 快適で生活しやすいまち 「いしがき」

### 2. 快適・安心

新たな市役所庁舎や八重山病院の移転が予定される旧空港跡地とその南側に広がる南大浜（はいほーま）地域につきましては、今後新たにまちづくりの発展が見込まれる地域です。

旧空港跡地につきましては、これまで土地区画整理の導入に必要な環境影響評価を行ってきたところであり、平成29年度も引き続き進めてまいります。南大浜（はいほーま）地域につきましては、秩序ある都市的土地利用を図る必要があることから、平成29年度中の用途地域指定を目指してまいります。また、旧空港跡地を横断する市道旧空港跡地線の新設整備に向け、平成29年度は、実施設計を完了し、用地買収及び工事に着手してまいります。

本市が管理する橋梁等の老朽化への計画的な対応も課題となっており、平成29年度は、市道縦7号線の西真地橋の修繕実施設計を行い、平成30年度の修繕工事に向けて取り組んでまいります。

南（ばい）ぬ浜（はま）町の新港地区は、今後クルーズ船による観光客の新たな石垣の玄関口です。大型クルーズ船専用の岸壁につきましては、平成30年春の暫定供用に向け、引き続き国と連携しながら整備の推進を図るとともに、同時に、国際港湾施設として必要



## 島の自然環境を守り活かす 「いしがき」

### 1. 環境と風景

本市は、国内最大規模のサンゴ群落である石西礁湖や、県内最高峰の於茂登岳などを中心として生物多様性に富んだ自然環境が形成されており、国の特別天然記念物であるカンムリワシやサキシマスオウノキといった希少な動植物の宝庫で、世界でも有数の豊かな自然が存在します。私たちの子、孫の世代へとこのかけがえのない自然環境を末永く引き継いでいくためには、弛（たゆ）まぬ努力が必要

です。平成28年度に係行政機関や民間団体等で設立した「自然環境保全ネットワーク」の更なる充実・強化を図り、不法投棄や違法採取の防止など、市を挙げて自然環境の保全や利活用に取り組んでまいります。

石垣らしい景観の形成につきましては、観光振興や津波対策など、これまで集約してきた市民等の意見を踏まえ、平成29年度は、自然と調和に配慮しつつ、景観形成基準の見直しなど風景計画等の改定を行ってまいります。また市制施行70周年記念事業として、新

栄公園に桜の植樹を行い、市民や観光客等の憩いの場となる石垣を代表する新たな風景の創出にも取り組んでまいります。

本市は、全88の星座のうち84の星座と、全ての1等星をみることができると、貴重で豊かな星空資源を有しております。これまで、過剰な照明による天体観測への障害や生態系への悪影響を及ぼす「光害（ひかりがい）」への調査を終え、啓発に取り組んできており、平成29年度は、国内初の「星空保護区」の認定に向けた申請を行います。また、美しい星空と市民生活に必要な光環境の両立を目指す「星空保全条例」の制定を行い、本市の観光資源の一つである星空の魅力とその価値の更なる向上に取り組んでまいります。

本年1月、本市は、市の蝶である「オオゴマダラ」を通じた交流が縁で、奈良県橿原市と生物多様性保全活動に関する連携協定を締結しました。今後、保全活動における人的・知的交流を始め、国立自然史博物館の本市への誘致に向けた取組においても、様々な連携を図ってまいります。

絶海の孤島であるが故に、世界的にも貴重な固有種が生息している尖閣諸島は、我が国固有の領土であり、本市の行政区域です。昨年、中国による領海侵入は延べ134隻を数え、昨年6月には中国軍艦1隻とロシア軍艦3隻が尖閣諸島海域の接続水域に入域する事態も発生しました。これを受け、本市としては、改めて国及び県に対し、監視・警備体制の更なる充実、我が国の領土、領海を守る取組の強化を要請しました。引き続き国や県と緊密な連携を確保しつつ、尖閣諸島に関する